

2016年3月期 上期決算説明会 質疑応答

2015年11月5日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：9月に発表した業績予想修正は上期分だけで下期は修正していない。下期にも上期程度の上振れが期待できるのではないか？

A1：日本において10月にローンチした薬剤溶出型ステント（DES）アルチマスターは好調な滑り出しを示している。上期に全体を牽引した米国や中国におけるIS事業についても、今のところリスクは少ないと考えており、基本的には上振れ基調だと考えている。しかし、元々下期は上期と比べ計画が高い。また競合他社のDESが近々国内にローンチされる可能性があること、米国における血液システム事業の価格下落がどの程度の影響になるか読めないこともあり、もう少し様子を見たい。今後の状況をみて、必要があれば修正する。

Q2：カンパニー経営の導入などの改革を行ってきたが、大きな打ち手は一巡したか？

A2：大掛かりなものは終えた。ポートフォリオ改革に終わりはなく継続して進めていく。

Q3：国内で近々発売予定である他社のDESとアルチマスターとの差別ポイントがみえない。このまま好調を維持できるのか？

A3：コーティングや金属の違いなどから差異化できる可能性はある。しかし、ドクターは新しい製品を一度は試し使いするので、他社製品が発売されれば、一旦売上が落ちることもあるかもしれない。しかし、使い比べた後にアルチマスターに戻ってくると信じている。

Q4：小さな改良改善を続け製品寿命を延ばすのがDESのビジネスモデルだが、アルチマスターはどうするのか？

A4：アルチマスターは完全自社製品なので改良改善の自由度が高い。開発を続けていく。

Q5：収益マインドが浸透したことによる利益へ貢献規模は？欧州ホスピタル事業の合理化による利益寄与は来期にあらわれるのか？

A5：収益マインドの貢献を定量化するのは難しい。上期においては、想定以上の効果が表われている。各事業において収益管理が細かく厳密になってきており、成長を収益に結び付ける体制が整ってきた。欧州ホスピタル事業の合理化は、来期から収益に貢献してくる。

Q6：米国における血液センターとの価格交渉について状況を教えてほしい。

A6：期初に想定していた価格まで下がらないよう交渉を続けている。加えて、中長期で物量を確保できるよう複数年契約も合わせて交渉中。

Q7：第1四半期と比べ第2四半期でのコストダウン効果が大きいですが、背景は？

A7：DESが、提携品のノボリから完全自社製品のアルチマスターに置き替わり始めている。また、原油安による材料価格安が第2四半期の方が大きかった。加えて、製品の物量が伸びた為、工場の生産稼働率が上がりコストダウンにつながった。

Q8：コロナリーステントにおける今後のパイプラインについて教えて欲しい。

A8：フランスのベンチャー企業ART社と薬剤溶出型・生体吸収性ステントを共同開発している。現在市場に出ている既存製品の課題を克服する開発ができれば一定のシェアは取れると思う。加えて、金属と生体吸収素材のハイブリット型が、一つのソリューションになると考え、併せて開発を進めている。

Q9：米国におけるIS事業が好調だが背景は？

A9：オバマケアによって被保険者が増えたことによりPCI症例数が増加している。また、米国のTRI普及が再び加速し、浸透率が30%を超えたことも寄与している。末梢血管治療用ステントのミサゴやPTAバルーンなど治療デバイスを投入した。これらが立ち上がってくれば、もう一段階の成長も期待できる。

Q10：今後のコストダウンの取り組み、また粗利益率の見通しについて教えて欲しい。

A10：日本の工場における地道なコストダウンに加え、海外工場への更なる移管や増産など、グローバルなテーマとして今後も進めていく。製品および事業ミックスの改善が進んでいることから、粗利益率の改善が続くと期待している。

Q11：米国においてカテーテルの治療デバイスを展開し始めたが、それらが貢献してくるであろう時間軸について教えて欲しい。

A11：米国は最大の市場である。焦らず、販売体制の強化など足場を固めており、中長期的な貢献を期待している。

Q12：米国におけるベンチャーキャピタルへの投資、ならびにインキュベーション活動について具体的な成果は出ているのか？

A12：ベンチャーキャピタルへの投資においては、既にリターンを得ているものがある。インキュベーション活動では、現行開発プロジェクトの今後の展開を決める段階に来ている。さらに追加プロジェクトも検討中。

以上